

学習指導要領		都立江北高校 学カスタンダード
<p>(1) ア 自然環境と歴史</p> <p>世界史へのいざない</p> <p>イ 日本列島の中の世界の歴史</p> <p>ア ユーラシアの諸文明</p>	<p>歴史の舞台としての自然環境について、河川、海洋、草原、オアシス、森林などから適切な事例を取り上げ、地図や写真などを読み取る活動を通して、自然環境と人類の活動が相互に作用し合っていることに気付かせる。</p> <p>日本列島の中に見られる世界との関係や交流について、人、もの、技術、文化、宗教、生活などから適切な事例を取り上げ、年表や地図などに表す活動を通して、日本の歴史が世界の歴史とつながっていることに気付かせる。</p> <p>自然環境、生活、宗教などに着目させながら、東アジア、南アジア、西アジア、ヨーロッパに形成された諸文明の特質とユーラシアの海、陸における交流を概観させる。</p>	<p>大河流域の生活と歴史]</p> <ul style="list-style-type: none"> 大河流域に形成された古代文明が、自然環境と深くかかわることによってその地域特有の生活・文化に発展したことを理解する。 <p>[海洋の生活と歴史]</p> <ul style="list-style-type: none"> 交通・交易の場としての海洋と深くかかわることによってその地域特有の生活・文化に発展したことを理解する。 <p>[日本と世界の人々との交流]</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本列島を訪れたり、日本列島から海外に渡ったりした使節や僧侶、商人などが渡航に至るまでのいきさつやその時代の様子を大観し、世界との関係や交流の事跡を理解する。 <p>[日本に伝来した外来の宗教]</p> <ul style="list-style-type: none"> 仏教やキリスト教など外来の宗教と日本古来の思想との関係について理解する。 <p>[東アジアの文明]</p> <ul style="list-style-type: none"> 東アジアの農耕地帯に成立した中華文明と内陸アジアの遊牧国家の動向を中心に、日本を含む東アジアの形成過程や文明の特質を理解する。 <p>[南アジアの文明]</p> <ul style="list-style-type: none"> 古代インド文明を中心に、南アジア独自の宗教（ヒンドゥー教等）と社会制度を基盤とする文明の形成過程や特質を理解する。 <p>[西アジアの文明]</p> <ul style="list-style-type: none"> 西アジアにおける古代オリエント文明、アラブ人とイスラーム帝国の形成過程や特質を理解する。 <p>[ヨーロッパの文明]</p> <ul style="list-style-type: none"> 古代ギリシア・ローマ文明、キリスト教を基盤とした東西ヨーロッパ世界の形成過程や文明の特質を理解する。 <p>[諸地域世界の交流]</p> <ul style="list-style-type: none"> 8世紀以降の海・陸のネットワークについて、域世界の交流が活発化し、諸地域世界が再編されたことを理解する。

学習指導要領		都立江北高校 学カスタンダード
<p>(2) 世界の一体化と日本</p>	<p>イ 結び付く世界と近世の日本 大航海時代のヨーロッパとアフリカ、アメリカ、アジアの接触と交流、アジアの諸帝国とヨーロッパの主権国家体制、大西洋世界の展開とアフリカ・アメリカ社会の変容を扱い、16 世紀から 18 世紀までの世界の一体化の動きと近世の日本の対応を把握させる。</p> <p>ウ ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成 産業革命と資本主義の確立、フランス革命とアメリカ諸国の独立、自由主義と国民主義の進展を扱い、ヨーロッパ・アメリカにおける工業化と国民形成を理解させる。</p>	<p>[世界の一体化とヨーロッパ] ・ヨーロッパでのルネサンスや宗教改革などの動きとともに、ヨーロッパによる海外進出について触れ、アジア交流圏への参入や、ラテンアメリカの征服・植民地化について理解する。 [アジアの諸帝国] ・16 世紀から 18 世紀までのアジアの諸地域の安定した支配と経済的繁栄について理解する。 ・やがてアジア諸帝国の支配体制がゆるみ、ヨーロッパ諸国の進出にともない変容したことを理解する。 [ヨーロッパの主権国家体制] ・ヨーロッパの主権国家体制の特質と形成過程を理解する。 [大西洋三角貿易とアフリカ・アメリカ社会の変容] ・大西洋三角貿易による世界の一体化の進展とそれに伴うアフリカ・アメリカ社会の変容を理解する。</p> <p>[産業革命と資本主義の確立] ・産業革命と資本主義の確立について、世界史的な視野でとらえさせ、経済や社会の変化を理解する。 ・資本家・労働者が形成され、労働運動や社会主義思想が成立したことを理解する。 [フランス革命とアメリカ諸国の独立] ・アメリカ合衆国の独立とフランス革命、ラテンアメリカ諸国の独立を通して、大西洋世界で起こった一連の政治的変動を理解する。 [自由主義・国民主義の進展] ・ウィーン体制下で自由主義・国民主義が高まりをみせ、19 世紀後半にはイタリア・ドイツなどで国民国家が形成されたことを理解する。 [アメリカ合衆国の発展] ・アメリカ合衆国の西部への領土拡張と移民の流入、先住民やアフリカ系の人々に対する抑圧がこの国の国民形成に独自の性格を与えると同時に、南北戦争後の工業化の進展について理解する。</p>

学習指導要領	都立江北高校 学カスタンダード
<p>エ アジア諸国の変貌と近代の日本</p> <p>ヨーロッパの進出期におけるアジア諸国の状況、植民地化や従属化の過程での抵抗と挫折、伝統文化の変容、その中での日本の動向を扱い、19世紀の世界の一体化と日本の近代化を理解させる。</p> <p>ア 急変する人類社会</p> <p>科学技術の発達、企業や国家の巨大化、公教育の普及と国民統合、国際的な移民の増加、マスメディアの発達、社会の大衆化と政治や文化の変容などを理解させ、19世紀後期から20世紀前半までの社会の変化について、人類史的視野から考察させる。</p> <p>イ 世界戦争と平和</p> <p>帝国主義諸国の抗争とアジア・アフリカの対応、二つの世界大戦の原因と総力戦としての性格、それらが世界と日本に及ぼした影響を理解させ、19世紀後期から20世紀前半までの世界の動向と平和の意義について考察させる。</p>	<p>[アジア諸国の変貌]</p> <ul style="list-style-type: none"> 18世紀後半から19世紀までのアジア諸国の支配体制の動揺と、ヨーロッパ諸国の進出により国家体制や貿易構造の変化が引き起こされたことを理解する。 18世紀後半から19世紀までのアジアの諸帝国の動揺と伝統文化の変容などに触れ、それに対する社会変革へのアジアの主体的な動きについて理解する。 <p>[第二次産業革命]</p> <ul style="list-style-type: none"> 第二次産業革命による交通・通信・マスメディアの発達とそれに伴う産業構造の変化、企業や国家の巨大化、国家の役割増大による国民統合の進展を理解する。 <p>[国際的な移民の増加]</p> <ul style="list-style-type: none"> ヨーロッパから南北アメリカやオセアニアへの大規模な移住、中国や南アジアから大量の移民労働者の供給について理解する。 <p>[帝国主義]</p> <ul style="list-style-type: none"> 欧米の帝国主義諸国が植民地獲得や勢力圏拡大の抗争を繰り広げ、一方アジア・アフリカ諸国ではナショナリズムが高揚していく意義を理解する。 <p>[第一次世界大戦とロシア革命]</p> <ul style="list-style-type: none"> 第一次世界大戦の原因や総力戦体制の性格、戦争がもたらした世界の変化について理解する。 大戦中にロシアで社会主義革命が起こったことを理解する。 第一次世界大戦が日本の政治や経済などに与えた影響について理解する。 <p>[第一次世界大戦後の国際秩序]</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際連盟やヴェルサイユ体制・ワシントン体制の理念に着目し、第一次世界大戦後の国際社会の枠組みが大きく変化したことを理解する。 アジア諸地域の民族運動の動向について理解する。

学習指導要領	都立江北高校 学カスタンダード
<p>ウ 三つの世界と日本の動向</p> <p>第二次世界大戦後の米ソ両陣営の対立と日本の動向、アジア・アフリカの民族運動と植民地支配からの独立を理解させ、核兵器問題やアジア・アフリカ諸国が抱える問題などについて考察させる。</p> <p>エ 地球社会への歩みと課題</p> <p>1970年代以降の市場経済のグローバル化、冷戦の終結、地域統合の進展、知識基盤社会への移行、地域紛争の頻発、環境や資源・エネルギーをめぐる問題などを理解させ、地球社会への歩みと地球規模で深刻化する課題について考察させる。</p>	<p>[世界恐慌とファシズムの台頭]</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界恐慌とその対応が、ドイツのナチズムなどファシズムの台頭や新たな国際対立を生み出したことを理解する。 東アジアにおける国際情勢と日本の動向について理解する。 <p>[第二次世界大戦]</p> <ul style="list-style-type: none"> 第二次世界大戦について、戦争被害の甚大さや複合的な性格、戦後の国際連合の設立や国際政治に与えた影響を理解する。 <p>[冷戦のはじまり]</p> <ul style="list-style-type: none"> 米ソ両陣営の対立による冷戦の構図と、核兵器等の開発による緊張関係の激化について理解する。 <p>[第三世界の台頭]</p> <ul style="list-style-type: none"> アジア・アフリカの植民地が解放され、第三世界として国際社会において発言権を強めたことを理解する。 <p>[1960年代の世界]</p> <ul style="list-style-type: none"> ヴェトナム戦争、中ソ対立による米ソ両国の指導力低下に伴い、多極化が進んだことを理解させる。 先進国の間に南北問題が顕在化してきたことを理解させる。 <p>[市場経済のグローバル化]</p> <ul style="list-style-type: none"> 1970年代のドル危機と、石油危機を打開するため、先進諸国は産業構造を転換、新興工業地域では欧米や日本などから技術・資本を導入して工業化を進めるなど、市場経済のグローバル化が進展したことを理解する。 <p>[冷戦の終結と社会主義体制の崩壊]</p> <ul style="list-style-type: none"> 冷戦の終結や社会主義体制の崩壊により、東欧諸国やソヴィエト連邦が政治的に自由化し、市場経済へ移行する過程を理解する。 <p>[地域統合の動き]</p> <ul style="list-style-type: none"> ヨーロッパにおける地域の経済的統合から、EUによる国民国家の枠を越えた政治的統合への発展への過程を理解する。

	学習指導要領	都立江北高校 学カスタンダード
<p>(3) 地球社会と日本</p>	<p>オ 持続可能な社会への展望</p> <p>現代世界の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、歴史的観点から資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について展望させる。</p>	<p>[地域紛争の頻発]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パレスチナ紛争など世界各地で頻発している地域紛争の歴史的背景を理解する。 <p>[地球社会の歩みと課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識基盤社会への移行に伴う生活の向上と、環境や資源・エネルギーをめぐる問題など今日的課題について理解する。

学習指導要領		都立江北高校 学カスタンダード
<p>(1) 世界史の扉</p> <p>自然環境と人類のかかわり、日本の歴史と世界の歴史のつながり、日常生活にみる世界の歴史にかかわる適切な主題を設定し考察する活動を通して、地理と歴史への関心を高め、世界史学習の意義に気付かせる。</p> <p>ア 自然環境と人類のかかわり 自然環境と人類のかかわりについて、生業や暮らし、交通手段、資源、災害などから適切な歴史的事例を取り上げて考察させ、世界史学習における地理的視点の重要性に気付かせる。</p> <p>イ 日本の歴史と世界の歴史のつながり 日本と世界の諸地域の接触・交流について、人、もの、技術、文化、宗教、生活などから適切な歴史的事例を取り上げて考察させ、日本の歴史と世界の歴史のつながりに気付かせる。</p> <p>ウ 日常生活にみる世界の歴史 日常生活にみる世界の歴史について、衣食住、家族、余暇、スポーツなどから適切な事例を取り上げて、その変遷を考察させ、日常生活からも世界の歴史がとらえられることに気付かせる。</p>	<p>[農耕の成立]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農耕の開始により人類が生産経済から獲得経済へ移行するが、その意義と影響を正しく理解する。 <p>[オリエント世界]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メソポタミア、エジプトにおける農耕文明の成立と発展を理解、またその相違点、特徴をとらえる。 ・東地中海世界の役割をセム語系3民族の活躍から理解する。 ・アッシリア、アケメネス朝ペルシアの興亡と比較から世界帝国の成立とその課題について考察する。またイラン世界が果たした歴史的役割を理解する。 <p>[地中海世界の地理的特質とギリシア・ローマ文明]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地中海の特異な風土のもとで地中海の交易が発達 	
<p>(2) 諸地域の形成</p> <p>人類は各地の自然環境に適応しながら農耕や牧畜を基礎とする諸文明を築き上げ、やがてそれらを基により大きな地域世界を形成したことを把握させる。</p> <p>ア 西アジア世界・地中海世界 西アジアと地中海一帯の地理的特質、オリエント文明、イラン人の活動、ギリシア・ローマ文明に触れ、西アジア世界と地中海世界の形成過程を把握させる。</p>	<p>[農耕の成立]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農耕の開始により人類が生産経済から獲得経済へ移行するが、その意義と影響を正しく理解する。 <p>[オリエント世界]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メソポタミア、エジプトにおける農耕文明の成立と発展を理解、またその相違点、特徴をとらえる。 ・東地中海世界の役割をセム語系3民族の活躍から理解する。 ・アッシリア、アケメネス朝ペルシアの興亡と比較から世界帝国の成立とその課題について考察する。またイラン世界が果たした歴史的役割を理解する。 <p>[地中海世界の地理的特質とギリシア・ローマ文明]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地中海の特異な風土のもとで地中海の交易が発達 	

学習指導要領	都立江北高校 学カスタンダード
<p>イ 南アジア世界・東南アジア世界</p> <p>南アジアと東南アジアの地理的特質、インダス文明、アーリヤ人の進入以後の南アジアの文化、社会、国家の発展、東南アジアの国家形成に触れ、南アジア世界と東南アジア世界の形成過程を把握させる。</p>	<p>した理由を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エーゲ文明の特徴、ポリスの形成過程、ポリス社会の特徴を理解する。 ・ポリスの民主政の成立過程を、ペルシア戦争と関連させ、その社会の衰退の過程を理解する。 ・ポリスの変容からヘレニズム世界の形成まで動向を理解する。 ・ローマ帝国の興亡の歴史的過程を経済的側面に触れながら政体の変遷を見ていく。 ・キリスト教発生から国教化に至る過程を為政者の政策と照らし合わせながら理解する。 <p>[南アジアの地理的特質]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東西世界を結ぶカイバル峠越えの地理的重要性を政治的経済的側面から理解する。 <p>[インダス文明]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インダス川流域から発見された遺物からインダス文明の特徴を理解する。 <p>[アーリヤ人の進入以後の南アジアの文化、社会、国家の発展]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北インドに起きた四つの統一王朝の変遷と各王朝の支配領域と文化的特徴や、デカン高原以南の地におけるローマ帝国との交易関係について理解する。 ・「インド教」とも呼ばれるヒンドゥー教の成立過程とその特徴を理解する。 <p>[内陸アジア諸民族と宋の抗争]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アム川とシル川の流域で活発な経済活動を行ったイラン系住民の動向とトルキスタンの成立、トルコ人のイスラーム化の過程を理解する。 ・10世紀前後から活発な動きを始めた中国東北部の東アジア系国家と宋との軍事的抗争と経済関係について理解するとともに、北方民族の二重統治体制の特徴を理解する。 ・宋の政治体制が文治主義を採用した過程及びその体制下で重要な位置を占めた士大夫層を理解する。 ・仏教が大きく二つの系統が分かれていく過程を理解するとともに、それぞれの諸地域への伝播の様子について地図を用いて理解する。

学習指導要領	都立江北高校 学カスタンダード
<p>ウ 東アジア世界・内陸アジア世界 東アジアと内陸アジアの地理的特質、中華文明の起源と秦・漢帝国、遊牧国家の動向、唐帝国と東アジア諸民族の活動に触れ、日本を含む東アジア世界と内陸アジア世界の形成過程を把握させる。</p> <p>エ 時間軸からみる諸地域世界 主題を設定し、それに関連する事項を年代順に並べたり、因果関係で結び付けたり、地域世界ごとに比較したりするなどの活動を通して、世界史を時間的なつながりに着目して整理し、表現する技能を習得させる。</p> <p>ユーラシアの海域及び内陸のネットワークを背景に、諸地域世界の交流が一段と活発化し、新たな地域世界の形成や再編を促したことを把握させる。</p> <p>ア イスラーム世界の形成と拡大 アラブ人とイスラーム帝国の発展、トルコ系民族</p>	<p>[東南アジアの地理的特質と国家形成]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インドシナ半島部と島嶼部の地形的な特徴や産業の様子を理解する。 ・インドシナ半島部、島嶼部の諸王朝の変遷と宗教的特徴を理解する。 <p>[東アジア世界の地理的特質]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黄河流域と長江流域の気候と農業の特徴を理解する。 <p>[中華文明の起源と秦・漢帝国]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黄河文明の前期と後期の竜山文化の特徴、殷と周の支配体制の特徴、甲骨文字の役割を理解する。 ・西周の政治勢力の興亡、農業技術と貨幣経済の発展、諸子百家の思想の特徴等を理解する。 ・秦・漢の統治政策の推移、武帝の時代の対外遠征、漢代の文化の特徴などを理解する。 <p>[内陸アジアの地理的特質と遊牧国家の動向]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スキタイを嚆矢とする騎馬遊牧民の活動の特徴を理解する。 ・匈奴が前漢発足頃からに強大化し、漢との勢力関係を地域と関連させながら理解する。 ・後漢以降約 400 年隋の統一までの興亡や社会経済の変化、魏晋南北朝の文化の特徴を理解する。 <p>[唐帝国と東アジア諸民族の活動]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・均田制を基盤とした隋・唐の諸制度と唐代の国際性豊かな文化の特徴を理解する。 ・周辺国家の特徴と唐との国際関係を理解する。 ・朝鮮半島の統一の歴史的過程を理解する。 <p>[アラブ人とイスラーム帝国の発展]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イスラーム教の特徴(「クルアーン」、イスラーム

学習指導要領		都立江北高校 学カスタンダード
<p>(3) 諸地域世界の交流と再編</p>	<p>の活動、アフリカ・南アジアのイスラーム化に触れ、イスラーム世界の形成と拡大の過程を把握させる。</p> <p>イ ヨーロッパ世界の形成と展開</p> <p>ビザンツ帝国と東ヨーロッパの動向、西ヨーロッパの封建社会の成立と変動に触れ、キリスト教とヨーロッパ世界の形成と展開の過程を把握させる。</p>	<p>暦、六信五行など)を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ムハンマド没後～ハールン・アッラシッド頃までの聖戦の展開と統治政策を理解する。特にアラブ帝国とイスラーム帝国との具体的な差異 ・エジプトのカイロに都としたファティマ朝、アイユーブ朝、マムルーク朝の変遷を理解する <p>[トルコ系民族の活動]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セルジューク朝、カラハン朝、ガズナ朝などのトルコ系国家の変遷やイル・ハン国による西アジア支配について理解する。 <p>[アフリカ・南アジアのイスラーム化]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イスラーム教の東進化でインドのイスラーム化の嚆矢となったデリーに本拠を置いたインドのイスラーム諸王朝の興亡、東南アジアにおけるマラッカ王国、アフリカにおけるマリ王国やソンガイ王国の興亡を理解する。 <p>[イスラーム文明]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・固有の学問と外来の学問について、具体的な事例に即して理解する。 <p>[ビザンツ帝国と東ヨーロッパの動向]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユスティニアヌス帝時の支配領域と近隣の国際情勢を把握する。 ・地理的な要因で東スラヴ・南スラヴの諸民族がビザンツ文化とギリシア正教を、西スラヴ人が西欧文化とローマ=カトリックの影響を受けたことを理解する。 <p>[西ヨーロッパの封建社会の成立と変動]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フランク王国だけがゲルマン民族の大移動後に強化した背景をカトリック教会との結びつきに着目する。 ・封建社会を上部構造（封建制度）と下部構造（荘園制度）の観点から理解する。 ・西欧の成熟が十字軍遠征、中世都市を発生させ、それが封建社会の変容につながっていることを理解する。 ・中世末期にローマ教皇権の衰退・封建諸侯の没落・王権の伸長の過程について理解する。 <p>[キリスト教とヨーロッパ世界の形成と展開]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教を中心とした中世ヨーロッパ文化について、具体的な事例から理解する。

学習指導要領	都立江北高校 学カスタンダード
<p>ウ 内陸アジアの動向と諸地域世界</p> <p>内陸アジア諸民族と宋の抗争、モンゴル帝国の興亡とユーラシアの諸地域世界や日本の変動に触れ、内陸アジア諸民族が諸地域世界の交流と再編に果たした役割を把握させる。</p> <p>エ 空間軸からみる諸地域世界</p> <p>同時代性に着目して主題を設定し、諸地域世界の接触や交流などを地図上に表したり、世紀ごとに比較したりするなどの活動を通して、世界史を空間的なつながりに着目して整理し、表現する技能を習得させる。</p> <p>アジアの繁栄とヨーロッパの拡大を背景に、諸地域世界の結合が一層進展したこととともに、主権国家体制を整え工業化を達成したヨーロッパの進出により、世界の構造化が進み、社会の変容が促されたことを理解させる。</p> <p>ア アジア諸地域の繁栄と日本</p> <p>西アジア・南アジアのイスラーム諸帝国や東南アジア海域の動向、明・清帝国と日本や朝鮮などとの関係を扱い、16世紀から18世紀までのアジア諸地域の特質とそこでの日本の位置付けを理</p>	<p>[内陸アジア諸民族と宋の抗争]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソグド人の活動とトルキスタンの成立、トルコ人のイスラーム化の過程を理解する。 ・契丹・女真と宋との軍事的抗争と経済関係について理解するとともに、契丹・女真の二重統治体制の特徴を理解する。 ・宋の文治主義統治と士大夫との関連を理解する。 ・宋代の都市の発達と貨幣経済の進展、南宋時代の江南の開発について理解する。 ・宋代の文化について、宋学・思想・美術・工芸を中心に理解する。 <p>[モンゴル帝国の興亡とユーラシアの諸地域世界や日本の変動]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・諸ハン国と元の関係を理解し、各領域を地図上で表現できる。 ・元の中国支配の特徴を理解する。 ・駅伝制が発達したモンゴルの陸上交通路と宋代の海上交通路が結び付き、広大なネットワークが形成されたことを理解する。 ・元及び諸ハン国の解体の過程と勃興勢力について理解する。 <p>[西アジア・南アジアのイスラーム諸帝国や東南アジア海域の動向]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ティムール朝の興亡とトルコ=イスラーム文化の繁栄を理解する。 ・オスマン帝国の興亡と国家体制について理解する。

学習指導要領	都立江北高校 学カスタンダード
<p>解させる。</p> <p>イ ヨーロッパの拡大と大西洋世界 ルネサンス、宗教改革、主権国家体制の成立、世界各地への進出と大西洋世界の形成を扱い、16世紀から18世紀までのヨーロッパ世界の特質とアメリカ・アフリカとの関係を理解させる。</p> <p>(4) 諸地域世界の結合と変容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ムガル帝国のインド統治について、その宗教政策の変化や、宗教政策と地方勢力の台頭の間係を理解する。 ・ポルトガルやスペインの東南アジア進出とムスリム商人の活動について理解する。 <p>[明・清帝国と日本や朝鮮などとの関係]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明の成立と明初の統治体制について理解する。 ・明の海禁政策と朝貢体制の確立、北虜南倭への対応が朝貢体制に与えた影響について理解する。 ・清の中国統治の特徴や支配領域の拡大と周辺地域の統治について理解する。 ・日本について、勘合貿易、朝鮮出兵、「鎖国」体制下の海外交易について理解する。 <p>[ルネサンス、宗教改革、主権国家体制の成立]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思想・芸術・科学などの分野におけるルネサンスの展開を理解する。 ・ドイツ・スイス・イギリスの宗教改革と対抗宗教改革の具体的な展開を理解する。 ・スペイン・オランダ・イギリス・フランス各国の興亡と三十年戦争の経過と結果を理解する。 <p>[世界各地への進出と大西洋世界の形成]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパ人による探検の事績を地図上で確認できるとともに、大航海時代の影響として商業革命と価格革命について理解する。 ・アジア市場におけるポルトガル・スペイン・オランダ・イギリス・フランス各国による覇権争いについて理解する。 ・アメリカにおける英仏の植民地争奪を理解する。 ・アメリカにおける砂糖やタバコのプランテーションにアフリカ系奴隷が労働力として使役された背景を理解する。 <p>[17～18世紀のヨーロッパ文化]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経験論、合理論、ドイツ観念論、自然法思想、啓蒙思想の各思想家の思想について理解する。

学習指導要領	都立江北高校 学カスタンダード
<p>ウ 産業社会と国民国家の形成 産業革命、フランス革命、アメリカ諸国の独立など、18世紀後半から19世紀までのヨーロッパ・アメリカの経済的、政治的変革を扱い、産業社会と国民国家の形成を理解させる。</p> <p>エ 世界市場の形成と日本 世界市場の形成、ヨーロッパ諸国のアジア進出、オスマン、ムガル、清帝国及び日本などアジア諸国の動揺と改革を扱い、19世紀のアジアの特質とその中で日本の位置付けを理解させる。</p>	<p>[産業革命]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イギリスで最初に産業革命が起こった理由を理解する。 ・産業革命の結果発生した労働問題や社会問題を理解する。 <p>[フランス革命、アメリカ諸国の独立]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・13 植民地の形成からアメリカ合衆国の成立までの過程を、諸外国の動きを含めて理解する。 ・フランス革命の勃発から進展の過程を、革命を主導した社会層の変化に着目しながら理解する。 ・ナポレオンの国内政策と征服活動について理解する。 ・ラテンアメリカ諸国の独立の経過を理解できる。 <p>[19世紀のヨーロッパ・アメリカの経済的、政治的変革]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウィーン体制の成立～動揺・崩壊の流れを把握する。 ・2月革命で1848年にヨーロッパ各地で起こった革命や諸民族運動の動向を把握する。 ・ロシアの南下政策からひきおこされた東方問題とその挫折の結果着手されたロシアの改革について理解する。 ・19世紀後半、イタリアとドイツの国家統一の過程を理解するとともに、ビスマルク外交と国内政策の内容を把握する。 ・アメリカの領土拡大と南北戦争後の経済的発展について理解する。 <p>[世界市場の形成とヨーロッパ諸国のアジア進出]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際的分業体制におけるアジア諸国の位置付けについて理解する。 <p>[オスマン、ムガル、清帝国及び日本などアジア諸国の動揺と改革]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワッハーブ派やウラービー運動、バーブ教徒の蜂起に見られるイスラーム改革運動やアラブ民族運動が起きたことについて理解する。 ・インドの植民地化推進中、イギリス東インド会社の業務が変化していったことを理解する。 ・東南アジア諸地域で帝国主義政策を進めるヨーロッパ諸国が大規模なプランテーション経営を展開したこととその影響を理解する。

学習指導要領	都立江北高校 学カスタンダード
<p>オ 資料からよみとく歴史の世界</p> <p>主題を設定し、その時代の資料を選択して、資料の内容をまとめたり、その意図やねらいを推測したり、資料への疑問を提起したりするなどの活動を通して、資料を多面的・多角的に考察し、よみとく技能を習得させる。</p> <p>科学技術の発達や生産力の著しい発展を背景に、世界は地球規模で一体化し、二度の世界大戦や冷戦を経て相互依存を一層強めたことを理解させる。また、今日の人類が直面する課題を歴史的観点から考察させ、21世紀の世界について展望させる。</p> <p>ア 帝国主義と社会の変容</p> <p>科学技術の発達、企業・国家の巨大化、国民統合の進展、帝国主義諸国の抗争とアジア・アフリカの対応、国際的な移民の増加などを理解させ、19世紀後期から20世紀初期までの世界の動向と社会の特質について考察させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経済摩擦に端を発するアヘン戦争に至るイギリスの対中国政策の推移、南京条約・北京条約の内容について理解する。 ・ 中国のナショナリズムを帯びた太平天国の乱について理解するとともに、その後に展開された洋務運動の限界について把握する。 ・ アジアにおいて明治維新より近代化を進めた日本の対外政策について理解する。 <p>[科学技術の発達、企業・国家の巨大化、国民統合の進展]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (第一次)産業革命と比較して、第二次産業革命の特質を理解するとともに、第二次産業革命の結果、市場を独占した巨大企業の諸形態と、その特色を理解する。 <p>[帝国主義諸国の抗争とアジア・アフリカの対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 欧米各国の帝国主義政策と国内政策を理解するとともに、欧米諸国間の世界分割競争の経緯と結果を理解する。 ・ 欧米諸国の支配が強まる中で起きた、辛亥革命、国民会議派の形成、ドンズー運動、青年トルコ革命、イラン立憲革命などの近代化を目指した運動の経緯を理解する。 ・ 日清戦争から日露戦争に至る経緯について、日本とロシアの対立の背景から理解する。 <p>[国際的な移民の増加]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 世界規模での移民が増加した背景を理解する。

学習指導要領	都立江北高校 学カスタンダード
<p>イ 二つの世界大戦と大衆社会の出現</p> <p>総力戦としての二つの世界大戦、ロシア革命とソヴィエト連邦の成立、大衆社会の出現とファシズム、世界恐慌と資本主義の変容、アジア・アフリカの民族運動などを理解させ、20世紀前半の世界の動向と社会の特質について考察させる。</p> <p>ウ 米ソ冷戦と第三世界</p> <p>米ソ両陣営による冷戦の展開、戦後の復興と経済発展、アジア・アフリカ諸国の独立とその後の課題、平和共存の模索などを理解させ、第二次世界大戦後から1960年代までの世界の動向につい</p>	<p>[第一次世界大戦]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第一次世界大戦中の戦時外交とくに秘密外交、総力戦における統制経済について理解する。 <p>[ロシア革命とソヴィエト連邦の成立]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 対ソ干渉戦争とソヴィエト政権の経済政策（戦時共産主義→NEP）について理解する。 <p>[大衆社会の出現とファシズム]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ヨーロッパ方面のベルサイユ体制とアジア方面のワシントン体制を区分し理解する。 ・ 第1次大戦後のアメリカの繁栄とその後を理解する。 ・ イタリアでのファシズムの形成を理解する。 ・ ソヴィエト連邦で社会主義路線において永久革命論と一国社会主義の対立とその後のスターリンの独裁を握っていった過程を理解する。 <p>[第一次世界大戦後のアジア・アフリカの情勢]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中国における国民党 v s 共産党の対立、インドにおける国民会議派 v s 全インド=ムスリム連盟の対立について理解する。 <p>[世界恐慌とその後の世界情勢]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 世界恐慌による各国の経済的な打撃を各国がどのような手立てで対応していったかについて理解する。 ・ 満州事変から日中戦争に至る過程やナチス=ドイツが独裁権を確立していった過程を理解する。 ・ スターリンの独裁体制が確立していった時期のソヴィエト連邦の外交政策について理解する。 <p>[第二次世界大戦]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スペイン内戦から第二次世界大戦勃発前までのヨーロッパの国際情勢について理解する。 ・ ヨーロッパにおけるドイツの勢力拡大と、アジア・太平洋地域における日本の勢力拡大を地図上で理解する。 ・ 第二次世界大戦中に行われた首脳会談の内容について理解する。 <p>[米ソ両陣営による冷戦の展開]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国際連合の主要機関の役割とともに、国際的な経済・金融の協力体制の形成について理解する。 ・ 戦後の東・西ヨーロッパの情勢とトルーマン=ドクトリンやマーシャル=プランが出された経緯を

学習指導要領		都立江北高校 学カスタンダード
(5) 地球世界の到来	<p>て考察させる。</p> <p>エ グローバル化した世界と日本 市場経済のグローバル化とアジア経済の成長、冷戦の終結とソヴィエト連邦の解体、地域統合の進展、知識基盤社会への移行、地域紛争の頻発、環境や資源・エネルギーをめぐる問題などを理解させ、1970年代以降の世界と日本の動向及び社会の特質について考察させる。</p>	<p>理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ドイツの東西分断、中華人民共和国の成立、ヴェトナムの情勢、朝鮮戦争などから冷戦体制が世界化していく過程を理解する。 <p>[戦後の復興と経済発展]</p> <ul style="list-style-type: none"> 西ヨーロッパ統合の流れを理解する。 日本が朝鮮特需で経済復興を果たし、ソ連との国交回復と国際連合加盟で国際社会への復帰を果たした過程を理解する。 <p>[アジア・アフリカ諸国の独立とその後の課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> 東南アジア・南アジア・西アジア諸国の独立の過程とアフリカ諸国の独立が進み、1960年が「アフリカの年」と呼ばれたことを理解する。 平和五原則の提唱、A・A 会議や非同盟諸国首脳会議の開催がもつ歴史的意義を理解する。 アジア・アフリカの新興独立国の多くが慢性的な貧困に苦しみ、国際機関や欧米諸国の援助に依存せざるを得なかったことを理解する。 <p>[平和共存の模索]</p> <ul style="list-style-type: none"> キューバ危機を契機に米ソの緊張緩和の方向が現れ、核兵器の拡大を制限する交渉が始まったことを理解する。 1950年代の「スターリン批判」やハンガリー事件、1960年代の「プラハの春」をめぐる動きなど、東側陣営の変化を理解する。 中ソ対立の推移とプロレタリア文化大革命後の中国の変化を理解する。 ヴェトナム戦争の経過と結果、アメリカ合衆国の経済に与えた影響を理解する。 <p>[市場経済のグローバル化とアジア経済の成長]</p> <ul style="list-style-type: none"> 経常収支の赤字と財政の赤字となったいわゆる双子の赤字の背景を理解する。 第一次石油危機の発生を第四次中東戦争と関連させ理解する。 貿易摩擦が先進工業国の省エネ対策、代替エネルギーの開発、先進技術開発競争と関連していることを理解する。 <p>[冷戦の終結とソヴィエト連邦の解体]</p> <ul style="list-style-type: none"> 中国における改革・開放路線の推進と天安門事件、ヴェトナムにおけるドイ=モイ政策の推進を理解

学習指導要領	都立江北高校 学カスタンダード
<p>オ 資料を活用して探究する地球世界の課題</p> <p>地球世界の課題に関する適切な主題を設定させ、歴史的観点から資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、資料を活用し表現する技能を習得させるとともに、これからの世界と日本の在り方や世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について展望させる。</p>	<p>する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソヴィエト連邦のペレストロイカが東欧諸国の民主化に与えた影響を理解する。 ・東欧諸国の民主化、冷戦の終結、ソヴィエト連邦の解体の一連の歴史的過程を理解する。 <p>[地域統合の進展]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・EU の取組を EC と比較し、EU の特徴を理解する。

学習指導要領		都立江北高校 学カスタンダード
<p>(1) 原始社会の特色及び古代国家と社会や文化の特色について、国際環境と関連付けて考察させる。</p> <p>ア 歴史と資料</p> <p>・ 遺跡や遺物、文書など様々な歴史資料の特性に着目し、資料に基づいて歴史が叙述されていることなど歴史を考察する基本的な方法を理解させ、歴史への関心を高めるとともに、文化財保護の重要性に気付かせる。</p> <p>イ 日本文化の黎明と古代国家の形成</p> <p>旧石器文化、縄文文化及び弥生文化の時代を経て、我が国において国家が形成され律令体制が確立する過程、隋・唐など東アジア世界との関係、古墳文化、天平文化に着目して、古代国家の形成と展開、文化の特色とその成立の背景について考察させる。</p>	<p>〔歴史と資料〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料に基づいて歴史が叙述されており、それらの情報を総合し、歴史を組み立てることが歴史を考察する基本的な方法であることを理解するとともに、文化財保護の重要性を理解することができる。 <p>〔日本文化の黎明〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 旧石器文化から縄文文化への移行とその違いを、自然環境の変化に着目し、具体的な遺跡や遺物について理解する。また、呪術的な風習の背景について理解することができる。 弥生時代の社会の変化を大陸文化の影響と関連付けて理解することができる。 <p>〔古代国家の形成と展開、文化の特色と背景〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 邪馬台国の呪術的宗教的権威と政治的権威を理解するとともに、その位置をめぐる論争の根拠と古墳時代へのつながりを理解することができる。 大和政権の支配体制や古墳文化の各時期の特色を大陸から渡来した人々との交流など東アジア諸国との関係に着目して考察することができる。 東アジア世界の動向や国内情勢の変化を背景に推古朝の改革を理解するとともに、飛鳥文化の各作品の特色を国際的視野から理解することができる。 唐の影響の下に成立した日本の律令制度は、単に模倣ではなく、日本の実情に合わせて制度化されていることを理解し、両者の違いを考察することができる。 平城京の時代を遺跡や遺物、文献などを基に考察し、支配領域の拡大や土地支配の強化など律令制度の展開について理解することができる。 天平文化の様々な文化財についての特色を国際的視野から理解する。また、鎮護国家の思想の背景や記紀などから古代の人々のものの考え方や生活を理解することができる。 	

学習指導要領	都立江北高校 学カスタンダード
<p>ウ 古代国家の推移と社会の変化 東アジア世界との関係の変化、 荘園・公領の動きや武士の台頭など諸地域の動向に着目して、古代国家の推移、文化の特色とその成立の背景及び中世社会の萌芽^{ほうが}について考察させる。</p> <p>(2) 中世の日本と東アジア</p> <p>中世国家と社会や文化の特色について、国際環境と関連付けて考察させる。</p> <p>ア 歴史の解釈 歴史資料を含む諸資料を活用して、歴史的事象の推移や変化、相互の因果関係を考察するなどの活動を通して、歴史の展開における諸事象の意味や意義を解釈させる。</p> <p>イ 中世国家の形成 武士の土地支配と公武関係、宋・元などとの関係、仏教の動向に着目して、中世国家の形成過程や社会の仕組み、文化の特色とその成立の背景について考察させる。</p>	<p>[古代国家の推移]</p> <ul style="list-style-type: none"> 平安初期の政治改革を律令体制の再編と変質の中に位置付けて捉え考察することができる。 摂関政治は古代社会が大きく転換する中でとられた政治形態であったことを理解することができる。 <p>[文化の特色とその成立の背景]</p> <ul style="list-style-type: none"> 弘仁・貞観文化を東アジア世界との交流や貴族社会と関連付けて理解することができる。 国風文化が成立する背景について、東アジア世界との関係の変化、浄土教と末法思想の広まり、貴族社会の変質などと関連付けて理解することができる。 <p>[中世社会の萌芽]</p> <ul style="list-style-type: none"> 初期荘園が律令制支配に矛盾するように拡大していった背景を考察し、公領の土地政策の転換や寄進地系荘園の発達について、地方政治と関連付けて考察することができる。 律令の軍制などの変質や地方政治の矛盾と関連付けて、武士の成長について理解することができる。 <p>[歴史の解釈]</p> <ul style="list-style-type: none"> 諸資料を一つ一つ深く読み込んで歴史を考察し、歴史的事象の推移や変化、因果関係を考察して、歴史的諸事象の意味や意義を解釈し解明できるとともに、大きな歴史の展開に位置付けて理解することができる。 <p>[中世国家の形成過程や社会の仕組み]</p> <ul style="list-style-type: none"> 院近臣や武士が国家の中で占める力を強め、平氏政権や内乱を通じ、中世的な国家が確立する条件が生まれたことを理解することができる。 平氏政権が短命であったことについて、その性格を踏まえて理解することができる。 鎌倉幕府の成立を社会の仕組みや公武関係の変化の中でとらえ、支配機構や土地制度の変遷を理解することができる。 朝幕関係の二元的支配の状況が大きく変わり、朝廷に対する幕府優位の関係が生まれたことを理解することができる。

	学習指導要領	都立江北高校 学カスタンダード
<p>(3) 近 世 の 日</p>	<p>ウ 中世社会の展開</p> <p>日本の諸地域の動向、日明貿易など東アジア世界との関係、産業経済の発展、庶民の台頭と下剋上、武家文化と公家文化のかかわりや庶民文化の萌芽に着目して、中世社会の多様な展開、文化の特色とその成立の背景について考察させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 武士の土地支配の拡大などについて、その背景や意義を公武関係の変化の中で多面的に理解することができる。 ・ 蒙古襲来から幕府衰亡への経緯を理解し、蒙古襲来や宋・元など東アジア世界との交流が社会・経済・文化に及ぼした影響を考察することができる。 <p>[文化の特色とその成立の背景]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 院政期の文化が成立する背景について、武士や庶民の台頭、地方文化の進展と関連付けて理解することができる。 ・ 新仏教誕生や旧仏教の革新に見られる多様な動きの社会的・思想的な意義やその影響を理解することができる。 ・ 芸術全般にわたる新傾向出現の背景を、東アジアとの交流や武士社会の発展などと関連付けて理解することができる。 <p>[中世社会の多様な展開]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 建武の新政の問題点、南北朝動乱の長期化の理由などについて理解することができる。 ・ 守護大名と幕府との関係などを踏まえ、室町幕府の支配機構の特色を理解することができる。 ・ 応仁の乱の意義を理解するとともに、戦国大名による分国支配の特色について史料を基に理解を深めることができる。 ・ 東アジアとの交易について、アイヌ社会とのかかわりや琉球の中継貿易、明・朝鮮との様々な形での交流などを踏まえて理解することができる。 <p>[文化の特色とその成立の背景]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 諸産業の発達により庶民が台頭し、地域的な要素が強まり、自治的な惣村の形成や一揆の組織が成立したことを理解することができる。 ・ 各文化が成立した時代背景を理解し、武家文化と公家文化の関連性並びに庶民文化の萌芽を理解することができる。 ・ 地方文化の諸相を京都の文化との関係や庶民の台頭と関連付けて理解する。また、古代・近世の都市と比較し、中世都市の特色を理解することができる。

学習指導要領		都立江北高校 学カスタンダード
<p>本 と 世 界</p>	<p>近世国家と社会や文化の特色について、国際環境と関連付けて考察させる。</p> <p>ア 歴史の説明 歴史的事象には複数の歴史的解釈が成り立つことに気付かせ、それぞれの根拠や論理を踏まえて、筋道立てて考えを説明させる。</p> <p>イ 近世国家の形成 ヨーロッパ世界との接触やアジア各地との関係、織豊政権と幕藩体制下の政治・経済基盤、身分制度の形成や儒学の役割、文化の特色に着目して、近世国家の形成過程とその特色や社会の仕組みについて考察させる。</p> <p>ウ 産業経済の発展と幕藩体制の変容 幕藩体制下の農業など諸産業や交通・技術の発展、町人文化の形成、欧米諸国のアジアへの進出、学問・思想の動きに着目して、近世の都市や農山漁村における生活や文化の特色とその成立の背景、幕藩体制の変容と近代化の基盤の形成について考察させる。</p>	<p>[歴史の説明]</p> <ul style="list-style-type: none"> 歴史的事象には複数の歴史的解釈が存在することを理解し、それぞれの論拠としている史料などを比較・検証し、それぞれの歴史的解釈を筋道立てて理解するとともに、自らの史料読解や史料批判を行い、自分の論理を組み立てて歴史解釈を行い、説明することができる。 <p>[近代国家の形成とその特色や社会の仕組み]</p> <ul style="list-style-type: none"> 兵農分離政策や身分制度の形成など織豊政権が近世の政治・経済や社会の基盤形成に果たした意義を理解することができる。 桃山文化以前の文化の担い手と比較して国際色豊かな文化で、生活文化として定着し後世まで残ったものであることを理解することができる。 幕藩体制の確立によって成立した近世社会の特色について、世界の動向と関連付けて理解することができる。 鎖国体制に至る過程やその影響を理解し、更に鎖国下でも関係のあった国や地域との交流の特色とその歴史的意義を理解することができる。 <p>[産業経済の発展や文化の特色]</p> <ul style="list-style-type: none"> 元禄時代や正徳の治の具体的な政策を、幕藩体制の安定を背景に理解することができる。 農業・商業の発展や陸上交通・海運の整備、貨幣制度などの具体的な発展とその特色を理解することができる。 元禄文化について、学問・文学・美術などについて、具体的な作品や作者を挙げ、時代背景とともにその特色を理解することができる。 享保の改革や田沼政治の具体的な政策を、時代背景や歴史的意義とともに理解する。 宝暦・天明期の文化について、学問・文学・美術など具体的な作品や作者を挙げ、時代背景とともにその特色を理解することができる。 <p>[幕藩体制の変容と近代化の基盤形成]</p> <ul style="list-style-type: none"> 寛政の改革や天保の改革の具体的な政策を、時代背景や幕政衰退の原因と関連させながら理解することができる。

学習指導要領		都立江北高校 学カスタンダード
<p>(4) 近代 日本 の 形 成 と 世 界</p>	<p>近代国家の形成と社会や文化の特色について、国際環境と関連付けて考察させる。</p> <p>ア 明治維新と立憲体制の成立</p> <p>開国と幕府の滅亡、文明開化など欧米の文化・思想の影響や国際環境の変化、自由民権運動と立憲体制の成立に着目して、明治維新以降の我が国の近代化の推進過程について考察させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・列強の接近の具体的な事例を理解し、鎖国体制や幕藩体制の衰退につながったことを理解することができる。 ・薩摩藩や長州藩を中心とする雄藩の具体的な改革を理解し、雄藩の台頭を近代へのつながりとともに理解することができる。 ・化政文化について、学問・文学・絵画など具体的な作品や作者を挙げることができ、時代背景とともに文化の特色を理解することができる。 <p>[開国と幕府の滅亡]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開国により幕政の在り方が変化し、朝廷権威が高まったことと我が国が国際社会の枠組みに組み込まれたことを理解することができる。 ・通商条約調印が、明治維新後の新政府にとって大きな課題となったことを理解することができる。 ・公武合体派が政局の主導権を握っていく過程と倒幕運動の展開について理解することができる。 ・徳川慶喜が、目指した政権構想について理解することができる。 <p>[明治新政府の近代化の推進過程]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・五箇条の御誓文と五榜の掲示の性格を理解することができる。 ・諸改革や富国強兵・殖産興業などの政策により中央集権的な近代国家の基礎が形成されたことを理解することができる。 <p>[文明開化]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文明開化が政府主導の近代化政策であり、欧米諸国と対等の地位へ引き上げようとするものであったことを理解する。 ・朝鮮など近隣アジア諸国に対して、欧米諸国と同じような姿勢をとったことを理解することができる。 <p>[自由民権運動と立憲体制の成立]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自由民権運動の経過、立憲政治確立までの政府の政策とその結果について理解することができる。 ・大日本帝国憲法が欧米以外では唯一の憲法であったことの意義を理解することができる。

学習指導要領		都立江北高校 学カスタンダード
(5) 両 世 界 大 戦 期 の 日 本 と 世 界	<p>イ 国際関係の推移と立憲国家の展開</p> <p>条約改正、日清・日露戦争とその前後のアジア及び欧米諸国との関係の推移に着目して、我が国の立憲国家としての展開について考察させる。</p>	<p>[条約改正]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国内の法体制の整備、国際関係の変化を踏まえ、条約改正交渉の展開を考察することができる。 <p>[日清・日露戦争とその前後のアジア]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日清戦争後の東アジア情勢を把握するとともに、それが日露戦争へつながっていったことを理解することができる。 ・藩閥政府と民党という対立軸が無くなり、政党の官僚化、官僚の政党化が進んだことを理解することができる。 ・日比谷焼き打ち事件以後、民衆の政治意識が高揚していったこと、日露戦争の勝利がアジア諸民族の独立や近代化に刺激を与えたことを理解することができる。 ・韓国併合後の朝鮮と日本社会の変化について理解することができる。
	<p>ウ 近代産業の発展と近代文化</p> <p>国民生活の向上と社会問題の発生、学問の発展や教育制度の拡充に着目して、近代産業の発展の経緯や近代文化の特色とその成立の背景について考察させる。</p>	<p>[近代産業の発展]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業発展の背景に、近世以来の教育の普及と就学率の高さがあったことを理解することができる。 <p>[近代文化の特色]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・富国強兵、殖産興業の政策上から科学技術の移植と研究が進められたことを理解することができる。 ・思想界の動向について、日清戦争や日露戦争などの社会情勢と関係付けて理解することができる。 ・教育の普及や交通・通信・出版の発達によって国民生活が変化し、国民自身の手による近代化が進んだことを理解することができる。
	<p>近代国家の展開と社会や文化の特色について、国際環境と関連付けて考察させる。</p> <p>ア 政党政治の発展と大衆社会の形成</p> <p>政治や社会運動の動向、都市の発達と農山漁村の変化及び文化の大衆化に着目して、政党政治の発展、大衆社会の特色とその成立の背景について考察させる。</p>	<p>[政党政治の発展]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・護憲運動以後の内閣は、民衆の動向に細心の注意を払って対応していかねばならなくなったことを理解することができる。 ・政治の民主化を求める国民の声は、大正デモクラシーの思潮を生み、政党政治の発展を可能にしたことを理解することができる。

学習指導要領	都立江北高校 学カスタンダード
<p>イ 第一次世界大戦と日本の経済・社会 国際社会の中の日本の立場に着目して、第一次世界大戦前後の対外政策の推移や大戦が国内の経済・社会に及ぼした影響について考察させる。</p> <p>ウ 第二次世界大戦と日本 国際社会の動向、国内政治と経済の動揺、アジア近隣諸国との関係に着目して、対外政策の推移と戦時体制の強化など日本の動向と第二次世界大戦とのかかわりについて考察させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 普通選挙法への対応などから原内閣の性格について理解することができる。 ・ 第一次護憲運動と第二次護憲運動の違いに関連付けて、二大政党による政党内閣制の意義について考察することができる。 ・ 社会運動の発展には、第一次世界大戦やロシア革命という国際的な影響もあつたことを理解することができる。 <p>[大衆社会の形成]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国内の地位的な経済格差が問題となり、二重構造となっていたことを理解することができる。 <p>[第一次世界大戦前後の対外政策の推移]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 二十一条要求などにより中国に権益を拡大していったことを欧米諸国や社会主義国との関係を踏まえて理解することができる。 ・ ヴェルサイユ体制下における五・四運動と三・一独立運動について、その後のワシントン体制下の日本の協調外交の展開を関連付けて理解することができる。 <p>[国内の経済・社会に及ぼした影響]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大戦景気により日本の独占資本主義が確立し、財閥による金融・産業支配が確立したことを理解することができる。 <p>[対外政策の推移]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 世界恐慌の発生やその対応策としての保護貿易主義の広がりという世界経済の構造的な変化の中で、日本はどのような対応をしたのかを理解することができる。 ・ 全体主義の台頭による国際社会の変化や中国などにおける民族主義の進展と日本とのかかわりを理解することができる。 ・ 軍部の政治的な進出の影響について理解する。 ・ 金融恐慌や昭和恐慌に対する経済政策と政治・経済・外交に与えた影響について理解することができる。 ・ 対外政策の推移を国内の政治・経済状況や国際環境と関連付けて理解することができる。

	学習指導要領	都立江北高校 学カスタンダード
<p>(6) 現代の日本と世界</p>	<p>現代の社会や国民生活の特色について、国際環境と関連付けて考察させ、世界の中での日本の立場について認識させる。</p> <p>ア 現代日本の政治と国際社会</p> <p>占領政策と諸改革、新憲法の成立、平和条約と独立、国際交流や国際貢献の拡大などに着目して、我が国の再出発及びその後の政治や対外関係の推移について考察させる。</p> <p>イ 経済の発展と国民生活の変化</p> <p>戦後の経済復興、高度経済成長と科学技術の発達、経済の国際化、生活意識や価値観の変化などに着目して、日本経済の発展と国民生活の変化に</p>	<p>[戦時体制の強化と第二次世界大戦]</p> <ul style="list-style-type: none"> 戦争の長期化による外交関係の変化、国内経済や国民生活への影響、学問・思想・教育などへの統制について理解することができる。 日本の敗戦に至る過程をたどりながら、国内外の戦争の悲惨さを連合国側の動向も踏まえて理解することができる。 <p>[我が国の再出発]</p> <ul style="list-style-type: none"> 初期の占領方針である非軍事化と民主化の諸政策を、当時の国内外の情勢と関連付けて理解することができる。 占領政策がどのように変わったのかを、再軍備と経済自立の視点から日本の位置付けを踏まえて理解することができる。 GHQ及び日本政府の方針を対比するとともに条文の内容を大日本帝国憲法と比較し、特色と意義を理解する。また、日本国憲法に基づいて行われた国家組織、法律体系などについて理解することができる。 日本の独立と日米安保体制の意義を冷戦や朝鮮戦争などの国際情勢や日本の地理的条件と関連付けて考察し、表現することができる。 <p>[政治や対外関係の推移]</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本が国際社会に復帰したことの意義及び日本が国際社会において果たすべき役割を、国際情勢と関連付けて考察することができる。 環境問題、資源・エネルギー問題などのような国家の枠を越えた課題について、国際環境の動向や地理的条件とかかわらせて理解することができる。 <p>[日本経済の発展と国民生活の変化]</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の経済安定策と朝鮮戦争に伴う特需景気により日本経済再建の基礎が築かれたことを、当時の国際情勢と関連付けて理解することができる。 日本経済の高度成長による国際的地位の向上と外交問題などを関連付けて理解することができる。

学習指導要領		都立江北高校 学カスタンダード
	<p>ついて考察させる。</p> <p>ウ 歴史の論述 社会と個人、世界の中の日本、地域社会の歴史と生活などについて、適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、考えを論述する活動を通して、歴史的な見方や考え方を身に付けさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国民生活が多様化する中で、生活意識や価値観の変化が生じたことを理解することができる。 <p>[歴史の論述]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会と個人、世界の中の日本、地域社会の歴史と生活などについて、社会生活にかかわる具体的な主題を自ら設定し、史・資料を多角的・多面的に考察し、自分なりの解答をレポートなどにまとめるとともに、他の生徒と意見交換や討論を行い、歴史認識を深めることができることができる。